

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年11月7日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 可児工業高等学校 同窓会館
開催にあたり、委員による可児工祭見学を実施した
- 4 参加者 委 員 大杉 守平 中恵土自治連合会会長
古山 友生 可児市立図書館長
村瀬 由香 元本校PTA役員
各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流会協会事務局長
日比野 光伸 本校同窓会副会長

学 校 側 中西 竜也 校長
青山 知喜 教頭
熊崎 俊介 教務主任
三輪 武 生徒指導主事
林 貴康 進路指導主事
宮田 忠夫 工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) スクールミッションの策定

意見1:案で示されたものは、文章が長いのではないか。

⇒県から「文章構成は県下で統一し、一文で表現する」と決められている。

その結果、案の内容から変更の必要はないと参加委員全員から承認を得た。

(2) 学校評価アンケートの結果

意見1:アンケートの質問に対して「わからない」と解答している保護者が多い。保護者に対してもう少し情報発信を積極的に進めるとよい。

⇒緊急連絡アプリ「すぐーる」の他、本校インスタグラムの運用を始めた。今後も、積極的な情報発信を心がける。

(3) 可児工祭に対する意見・提言

意見1：生徒がお互いに協力して一緒に取り組むこのようなイベントは大切である。

意見2：出し物はどのように決めたのか。

⇒生徒たちが自ら決めた。

意見3：みんなで考えながら一つのことに取り組むこのような行事は、授業とは違った生徒同士の交流が図れるため、今後も継続すべきである。

意見4：PTAとして過去3年間可児工祭を見てきたが、コロナ禍が明け、生徒の活気が出てきたと感じた。また、昨年度より内容の深いものが多く、もっとこのような経験ができる場があるとよい。

意見5：準備にかなりの時間をかけているのだろうと想像できた。また、普通科高校ではない工業高校ならではの出し物が多く、保護者公開だけでなく一般公開ができたならさらに楽しめる行事になると感じた。

意見6：授業参観とは違った生徒の一面が見られた。クラス、部活動、委員会など、役割が重なっている生徒はどのように活動していたのか。

⇒クラスの活動を中心に、時間差で他の活動にも参加して準備を進めた。

(4) 本校に対する意見・提言

意見1：生徒トイレを確認したが、非常に綺麗に使われており、そこからも良い学校であることがうかがえた。

意見2：外国にルーツをもつ中学生にとっては、日常の日本語はもちろん工業の専門用語など言葉の壁があるが、入試で帰国生徒や外国人生徒の枠で入学している生徒はいるのか。

⇒ここ最近はまだ全くいない。

意見3：出前授業を始めとした地域との連携事業は、今後も積極的に取り組んでもらいたい。

意見4：就職希望者の中で、まだ内定をもらっていない生徒はいるか。

⇒就職希望者は公務員を含め結果待ちの生徒が数名いるが、もうすぐ全員決定する。なお、3年以内の離職率は全国平均37%のところ本校は25%となっており、比較的高い定着率となっている。

意見5：進学先はどのようなところか。

⇒大学は本校で学んだ内容をさらに高める学部学科へ進学する生徒が多く、専門学校等は医療系、商業系などを含め様々な分野へ進学している。

6 会議のまとめ

- ・委員の意見を取り入れた、来年度のスクールミッションの案を作成した。
- ・可児工祭の見学を通して、生徒がお互いに協力して一つの目標に向かって取り組む機会の重要性を再認識した。
- ・保護者や地域の方々への情報発信について、今後はインスタグラムをはじめとしたSNSの積極的活用に取り組んでいきたい。